

第 4 回山陽小野田市基本構想審議会	
開催日時	平成 2 9 年 6 月 2 2 日（木）午後 6 時 3 0 分～午後 9 時
開催場所	山陽小野田市役所本館 3 階 大会議室
出席委員	吉川委員、石川委員、篠原委員、長谷川委員、瀬口委員、平中委員、恒松委員、平野委員、藤村委員、民谷委員、中原委員、渡邊委員、加藤委員、平田委員、原雅典委員、田中剛男委員、伊場委員、江田委員、原孝造委員、山根委員、森田委員、吉田委員、玉田委員、山本委員、松原一雄委員、竹本委員、塩田委員、古谷委員
出席職員	総合政策部長、企画課長、企画課課長補佐、企画課主査、企画課主査兼企画係長、企画課行革推進係長、企画課主任
協議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 委員の異動について</p> <p>5 議題</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 基本構想の序論案について</p> <p>主な質疑応答</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>第 1 編について御意見・御質問はあるか。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>第 1 編について確認があるが、4 ページに総合戦略と人口ビジョン、総合計画の図式と文言が書いてあるが、人口ビジョンについて昨年 3 月に策定した。これは 2060 年、平成 72 年までの 45 年間という長期にわたっての人口ビジョンである。これを包含しながら、今回は平成 41 年、12 年後のことをうたっていて、45 年の間に当然これを反映さ</p>

せなければならないが、この下の図面が、どうも人口ビジョンとの兼ね合いでよくわからない。これを全体的に見ると、総合戦略の上に人口ビジョンがあり、2060年に約5万人となっていた。第二次では5万8,000人となっているが、この人口ビジョンの関係についても図式化しておかないと忘れてしまうのではと思う。また、各種個別計画についても市全体でどの程度あるのか。去年の時点で、私が知る限りでは40前後、私の知らないものもあるため100前後はあると思う。裏側にでもいいから、市としてはしっかりと把握しておいてほしいと思う。

#### 【委員】

第一次総合計画で10年間が終わったが、達成度はどの程度あるのか。それを個別にある程度出してもらわないと、第二次総合計画との関連性、さらに市長の新政策等の思いもあると思うが、検討するたたき台として、第一次総合計画の積み残しがどの程度あるのかを示してもらわないと、第二次総合計画を語ることはできないし、検討課題にもならない。数値化できるものは数値化してもらいたい。前回の総合計画も全て達成できたとは思えない。第一次総合計画以前から問題提起されている部分も果たしてどのようになっているのか。継続課題として、まず第一次総合計画の達成と積み残しを示し、第二次総合計画の方向性や重要度を検討していかないといけない。そうしないと具体案も出せないと思うが、その用意はあるか。

#### 【事務局】

総合戦略の中に人口ビジョンは含んでいるが、わかりづらいということであれば、図式については、今後修正を加えたいと思う。個別計画の記載については、基本構想の次に

出てくる基本計画の中でそれぞれに関連する個別計画を示している。一覧を巻末につけるといのは検討していきたい。

**【会長】**

次に、第一次総合計画が10年間続いてきて、その上に第二次総合計画が乗っかるのか、さらに施策の部分で引き続き取り組まなければならないような課題があるのか、その点については。

**【事務局】**

第1回会議で施策課題カルテをお配りした。その中で第一次総合計画の検証を行い、取りまとめを行っている。それぞれ第1章～5章まで指標を立て達成度、進捗状況を評価する資料を作成している。これをもとに、第二次総合計画の施策に向けて課題を検討し、序論の23、24ページに凝縮してお示ししている。

**【委員】**

23、24ページを見ても、具体的なことが全然わからない。

**【事務局】**

第1回会議で施策課題カルテに書いており、第2回でもできていない部分をA3の資料でお示ししている。一つずつ、それぞれの資料を出した中で、全てのものを個別にできているかどうかという判断はできないので、こういう指標を使いながら、できていないものはDということで評価している。課題の整理の中では全般的なものとして取り扱っているなので、そこは御理解をいただきたい。

**【会長】**

これはずっと積み上がってきているものなので、基本構想の下に基本計画というのがあり、こちらと関連が強いのだろうと思うが、前の資料を見ていただいてということになるかと思う。ここは基本構想を決めようという会議なので。とりあえずよいか。

**【委員】**

個別に、はい。

**【会長】**

それでは、ほかに。

**【委員】**

山口県の農業は全国的に最下位となっている。特に山陽小野田は農業政策が見えていない。これが基本構想なのか、個別計画なのかはよくわからないが、とにかく全国最下位。県内でも農業政策には目を向けてもらっていないのかなというのがある。実際農業者に声を聞いても、多くがそういう思いでいる。約2,000人の就農人口を見ると、産業特化係数が低い。これは専業農家のことであると思うが、山陽小野田は兼業が多い。ぜひ、農業の施策も考えてもらいたい。県知事は農業者施策支援を掲げられている。山口県で施策をあげていくということも県知事は言っている。山陽小野田市でも検討していただきたい。山口市や宇部市ではいろいろされている。

**【会長】**

これは基本構想のその下の部分で議論していかなければならない問題だと思う。

**【事務局】**

農業施策については、23 ページからの課題の整理の中にある、後継者が不足しているというようなことも含めて、基本計画、実施計画の中で農業施策についても検討していきたい。

**【会長】**

続いて、第2編について御質問はあるか。

**【委員】**

レノファがJ1になったときに試合ができるようなコートは整備されているのか。

**【事務局】**

今レノファ山口は、ホームスタジアムを維新百年記念公園の陸上競技場にしている。山陽小野田市では、昨年度クラブハウス機能を持つ練習会場を整備し、レノファ山口はJ1ライセンスが取れた。練習会場、クラブハウスといった基準をクリアした結果、天然芝の山口県立おのだサッカー交流公園が練習会場として認められた。ただ、今後サッカーの試合ができる施設を作るのかというところまでには至っていない。

**【委員】**

前の市長のときにはコートができるのがほぼ決定で、新しい市長では白紙になったのか。

**【事務局】**

前の市長の時も、J1ライセンスの基準をクリアして練習

会場に指定されると意味での発言だったと思う。

**【委員】**

ガラス展などの催しについては、ほぼ企業や団体にチケットの購入をお願いしてなかなか浸透しておらず、全国から観光客が集まるということにはなっていない。また、ふるさと納税についてはどうなっているのか。

**【事務局】**

3年に1度開催するガラス展のチケットについては、売上げによって事業展開していくということになっており、企業にも販売をしてもらっているのが事実である。ふるさと納税は他市の方が山陽小野田市に寄附していただく。昨年の6月から返礼品の送付を始め、寄附は増えている。ガラスや農産物（ねぎ、アスパラ）、スピーカーのコードなど、120種類ほどある。

**【委員】**

市のカラーを出していかないといけない。農業も工業も商業もとあまりに、手を出し過ぎている。それで、山陽小野田の特産品として何が一番かを聞いてみたい。

**【会長】**

山陽小野田の特産は、ガラス、ふぐ、農産物といったものだと思う。特色というとはやはりガラス。

**【委員】**

要するに行政としての決定の仕方。今日の議長もレノファの活用の委員会を開かれている。その委員会の中で、サッカー場、クラブハウスを作るというのは当然会議で提案さ

れ、審議されている。それなのに、いつの間にか、我々に相談もなく意思決定され、勝手に進められている状態。どういう決め方をされたかというのは我々に全くわからない。

#### 【会長】

レノファを活用してまちづくりをしていこうという話である。ただ、例えば大分のような大規模な施設は無理であるから、まずは練習拠点を引っ張ってくるということになったと聞いている。練習場があると、選手も近辺に住むかもしれない、すると人口増にもつながるのではないかと。さらに見に来る人も増え、交流人口も増えるのではないかと。こういう狙いでスタートした。あくまでまちおこしの一環として捉えてほしい。

#### 【委員】

決定する前のプロセスが知りたい。そこが中途半端。相談も会議もなく違うところで勝手に決まっているというのは失礼ではないか。

#### 【事務局】

市の施策なのでいろいろな関係機関があって協議をする。ここの会議はあくまでも基本構想審議会ということで、第二次総合計画の指針となるものを策定していただく審議会である。今回のレノファのサッカー場も、市の予算として作ったが、いろいろな関係機関と協議しながらやっている。この基本構想審議会については平成30年以降のまちづくりについて検討していただきたいと思う。

**【委員】**

僕らが言いたいのは、せっかく委員が集められているのだから、そういうことがないように御注意くださいということ。説明することは説明して、過去の反省をふまえて将来像を描きたいのであれば、皆の意見をしっかり聞いて方向性を出してくださいということ。

**【事務局】**

個別の意見はまたお聞きする。この会議では、全体としての御意見を聞いた上で将来像、全体としての大きなくくりを御審議いただきたい。

**【委員】**

さっきも言ったように、第一次総合計画に基づいて10年間やってきているのだから、何ができていて何ができていないかを皆に説明しないと、何をどのように協議したらよいかもわかりづらいではないか。

**【部長】**

第2回で資料として指標を元に達成度を出している。第一次総合計画で達成できていないのが、第4章の「賑わいと活力に満ちたまちづくり」。この産業振興・都市基盤にすることが指標としては達成できていない。逆に最も達成できているのは、第5章の「人が輝く心豊かなまちづくり」。かなり量も多いので説明不足だったかもしれないが、今後また産業振興、都市基盤に関しては、第二次総合計画でも分野ごとの施策について力を入れていきたい。

**【委員】**

第1編について、2点ほど。23、24ページの課題の整理



の部分について、社会全体で、家庭で、市民でいろいろ充実させる必要があるということがたくさん書いてある。市民と協力してやるというのは基本的にわかるが、もう少し市がすることをはっきりさせて、「市民がしてくれる」という期待を持った必要というのは書いてほしくない。山陽小野田市の職員がこの課題についてはこう取り組む、その前提として市民は手伝ってくれというのはそもそもおかしいんじゃないかと思う。基本構想の中に、あまりにも協働とか市民に頼った施策があるのは、市役所としてどうなのか。何のための市役所なのか。

それともう一つ、5万8,000人という人口が出ているが、第一次総合計画のときの目標人口は、確か6万4,000人、それが結果的に6万2,000人で、推計人口どおりの人数になっているということだと思う。少なくとも、この10年のことを考えてみると、推計人口どおりになるといっても間違いではないと思う。ここで、5万8,000人という大きな目標を掲げて運営すると逆に無駄が出てくるのではないか。あまり推計人口とかけ離れた目標人口を掲げて、無理のある財政運営とか、市の職員の方に無理して働いてもらうのはどうかと思う。12年後に例えば5万人のまちをつくるという計画でもよいのではないか。

#### 【事務局】

23、24 ページの課題の整理について、基本的には行政もそれなりのことをした中で、不足している部分の体制を整えていくということ。市が何もしないというわけではなく、どこに課題があるかをここでは表している。市民との協働は大事だが、市民だけに頼ってという意味ではなく、市が下準備をしながら目標に向かっていくということである。

### 【事務局】

人口の見通しについては、26 ページに案として平成 41 年に 5 万 8,000 人と設定し、それが少し高いのではないかと。この数値の出し方だが、平成 28 年の 3 月に策定した人口ビジョンを基にしている。2060 年には、このまま何もしなければ 3 万 5,793 人まで減少し、自治体としての基礎的な機能が維持できない。これは全国的な課題でもあり、いかに人口減少を抑制していくかということである。今、若い方が結婚したい子どもを持ちたいと思っても、さまざまな事情によりそれができないという問題が生じている。市としては、結婚・出産・子育ての希望をどうかなえていくかが課題であり、それにどう対処していくかを総合戦略に示している。これは、人口ビジョンを策定して本市の展望を示しており、見栄を張ってということではなく、出生率も本市は県より若干高く、山口東京理科大学の薬学部の設置もあり、その教職員数や学生数なども考慮して無理のないところで推計している。それを基に国勢調査の数値も勘案し、5 万 8,000 人を掲げている。

### 【委員】

課題の整理をいろいろ書かれているが、結局、産業・観光で山口東京理科大学ということばがでてるのが山陽小野田市らしいかなあというくらいで、あとはどこのまちな行っても通じる文章。どこに山陽小野田市らしさが出ているのか。

### 【会長】

その前に、人口の問題と行政の在り方ということについて、今はお話しいただいている。

**【委員】**

この10年の推移からして無理はないといえるのか。では、前年の10年は行政が大失敗していたのか、それとも、行政はそれなりにしたけれどこの数値になったということを考えれば、12年後にこの5万8,000人という数字は。

**【副会長】**

26ページの見通し、平成27年は6万2,510人、ホームページでは今年の5月で6万3,709人という数字が出ている。

**【委員】**

これは国勢調査ベースと住民登録ベースで違う。だけど、計画を立てたときの目標人口は全部国勢調査ベースでやっているから、比較することができない。

**【事務局】**

国勢調査と住民基本台帳の違いについて御説明を。第一次総合計画、第二次総合計画の目標人口、統一した基準でないと比較ができないので、いずれも4年に1度実施される国勢調査をもとにした数字で推計している。住民基本台帳のほうが人口が多いという現象は、例えば学生が親元に住民票を置いたまま引っ越しするなどのケースがあるためである。

**【委員】**

23、24ページに記載されていることは、山陽小野田市のための課題なのか。どこのまちでも言えることではないか。

**【事務局】**

施策課題カルテや事業をやる中で、少子化や下水道の整備など様々なことが全国で同じ状況で、山陽小野田市もそういった課題をもっており対策をとらなければならない。産業観光については、一部山陽小野田市の特長となるところを出してもいいかなと思っている。レノファ山口などの言葉を出してもよかったが、現在は課題の整理をしている段階ということで御理解をいただきたい。

**【委員】**

基本的なことだが、今日の審議会の役割というのは基本構想の承認ということでよろしいか。基本構想は総花的にいろいろな課題を挙げるということが基本だと思うので、基本構想についてとやかく言うつもりはない。私たちは、基本目標、実施計画などについては意見を出しやすいが、基本構想全体と言われるとどうも意見が出にくくなる。基本構想を承認したあと、目標や実施計画などの細かい部分については意見を言えないのか。

**【事務局】**

基本構想審議会であり、序論や課題の整理、基本構想について今から審議いただくが、この基本理念や構想というのは、やはり迷ったときに立ち返るものである。よって、どういうまちづくりがいいかというお話を伺いたい。基本計画、実施計画についてはこの基本構想を基に調整をしていく。皆様にはこの基本構想の部分について御審議いただきたい。

**【会長】**

これはちょっと最初から、委員の方と市の考えとのギャップがある。この会議でまとめたいと思っていることはこのあと出てくると思う。よって、1編についてはここで一度閉じて、先に2、3、4編を進めさせてもらいたい。

(2) まちづくりの基本理念及び将来都市像の素案について

主な質疑応答

**【委員】**

総合計画に関してだが、第一次総合計画と第二次総合計画の違い、特徴、そして第一次総合計画でできなかったこと、それが第二次総合計画にどう反映されているのかを具体的に示してもらったほうが議論がしやすいのではないかと思うが、どうか。

**【事務局】**

基本的には第一次総合計画、第二次総合計画の継続性は大事だと思う。180度違うこともないと考えている。これは基本的な理念という考え方。前は「住みよさ」がキーワードで、基本的な視点については今回も同じである。だから、継続的なことでは、この山陽小野田市に住んでほしいという思いを持って、理念のようなものを策定していきたい。今回は、これまでの皆さんの意見を踏まえ、1～6までの基本理念の案を一度作ってみた。もちろんこれ以外のものが出てくるのも構わない。第一次総合計画でできていないところについては指標でみるしかないため、A～Dのランクで評価し、D評価のものについては今後取り組んでいかないといけないし、A評価のものは継続して取り組ん

でいかなければならない。具体的なものと言われると難しい。

**【委員】**

提案だが、課題の整理の中で第一次総合計画の結果を出し、こういうことができなかつたから今回はこのように、というものを入れたほうがよいのではないか。そうすればつながりもわかる。今回のものだけだと独立して見えてしまう。前回の計画のこういうことがまだ残っているというようなものを課題の整理の中できちんと見せてほしい。私は宇部市で、久保田市長が近隣の大学の先生を集めた公聴会を開いたときに、似たようなものを見た。そのとき私は〇〇委員と全く同じ発言をした。「これは宇部市でも関東のどこかの都市でも変わらず同じことが書いてありますね」と。これはどこのまちでも言えること。だから絶対に、課題の中には固有名詞を入れてほしい。ここの課題の整理についてはぜひ、固有名詞を入れてほしい。

**【会長】**

きちんとわかる課題の整理をしてほしいとのことだがどうか。入れようと思えば入れられると思う。

**【事務局】**

特徴のある課題の整理とあったが、支障のない形で固有名詞等を入れることも検討していきたい。

**【委員】**

資料4について、今日の一番の大きな審議内容だと思う。いろいろな意見が出て、当然検証は必要だと思う。まちづくりの基本理念を6案出されていて、何だかすごく分かり

づらい。「住んでみたい暮らしを作ってみよう」というのがピンとこない。2番の将来都市像の中に、市民の生命・財産を守る「安心・安全の確保」を基本とした基本理念をもとに、ここに基本理念とうたっているのがどういう意味なのかなと思う。まだ基本理念をつくっている最中なのに。言葉を換えたほうがよいのかなと。

山陽小野田市の色、ということで、もっと、ありきたりな言葉ではなく、先ほど農業の話もあったが、「産業」という言葉でひとくくりにするのはピンとこない。担い手の課題もあるわけだし、「産業」という言葉でひとくくりにされるのには違和感がある。

また、将来都市像の基本的視点の最後のほうに関して、新市長が「当市に今あるものを有効活用して」とよく発言されているが、では、前には進まないのかなと僕は感じた。新しいものを作って新しいところにつなげるというの必要ではないかなと。この10年間の中でもいろいろチャンスがあった。目標を掲げるところに今あるものを活用するのは当然のことだが、未来に向かっては少し言葉足らずではないかなと思っている。「こういう都市にしたい、こういうまちにしたい」という行政の思いがつまっていればよいのでは。それにそって具体的な施策を生んでもらえればいいかなと思う。

#### 【委員】

市長は、古きをたずね新しきものを知るという精神論を言っているだけで、決して今ある古いものを活用するようにと言っているわけではないと思う。いろんな歴史や経験を確認しながら、新しいものにも活用していこうというのが市長の基本的な考え方で、そういったまちづくりをしたいということだろうと私は思う。

**【事務局】**

まちづくりの基本理念については、左側が決まってから将来都市像を設定しますということ。表現はもう少しわかりやすくしたい。

**【委員】**

将来都市像のキャッチフレーズについて、「人にやさしいすんでみいね さんようおのだ」など、特徴やまちのカラーを出すために、方言や地域の言葉などを入れたほうがよいのでは。

**【会長】**

賛同される方、3名。参考意見として伺っておく。

**【委員】**

私はこの町の色はオレンジだと思う。ここまで聞いてきて欠落している部分がある。我々は、一日働いて食べて寝て、また働く、これが基本。この生活のレベルをきちんと維持して、あるいはさらに成長させる。これがないと全体の計画なんて言えないのではないか。人口が減って行って、5万8,000人になって1割人口が減ったら、生活レベルが1割下がるのか？それは許せない。だから、1割生産性を上げる。だが、1割生産性を上げるのでは維持しているだけ。だから、2割上げる。日本は今まで人口で勝負してきた。人口がいるから、高いGDPだとかノーベル賞の数だとか維持してきた。でも、人口で割ればそんなものは世界中流程度。一番大事なことは、1人当たりの生産性を上げること。1人ひとりの効率を上げることで生活レベルを維持、あるいは向上させる。よく知りたい方はデービッド・



アトキンソンの「新・所得倍増論」を。1人ひとりの生産性や効率をあげる視点を入れてほしい。

**【会長】**

基本理念に反映できるかもしれない。

**【委員】**

さっきから何遍も言っているが、山陽小野田市の将来像、これ、10年前に書かれた文章でも通用すると思う。そして今でも通用する。今の山陽小野田市に特化した文章を考え、作成してほしい。

**【事務局】**

まちづくりの基本理念について、お手元の資料に第一次総合計画の基本理念があり、今までは「住みよさの創造」、これ一本できていた。10年間これに向かって走ってきたが、できたところとできなかつたところがある。このたびの第二次総合計画の基本理念は、市民の方が住んでよかった、住みやすいと思ってもらえることを一番に考えている。人それぞれ「住みよさ」というのは恐らく違うが、健康、産業、賑わい、雇用、教育、医療の全てを含んで幸せや豊かさを実感できる住みよさの創造である。

将来像に関しては、産業だけでくくると難しいとか、利活用というのもあるし、生産性をあげるということもある。それらを総合的に考えると活力というものに結びつくのではないかと。将来においても活力のあるまち。子どもからお年寄りまで笑顔で住みよいまちであってほしいという意味で「笑顔」と示している。「笑顔」というキーワードは他の市町でもあまりないと思った。市のたたき台としては活力と笑顔を中心にしていこうと。それ以外にもこう

いうキーワードをとというものがあれば検討していただきたい。

**【委員】**

参考までに聞くが、どこのコンサルで、経費はどのくらいかかったかお聞きしたい。

**【事務局】**

第二次総合計画は、ジャパンインターナショナル総合研究所というところで、昨年度から2年間で金額は1,000万円弱。

**【委員】**

私どもは、これ基本構想の審議会だが、その前段階として、先生方にも一緒に入っていてコンサルと話をしてもらおうということも必要なのではないか。コンサルと行政だけで話してベースを作るということだったら大して変わらないんじゃないか。だからこういう総合計画になってしまうんじゃないか。

**【会長】**

相当きつい意見が出てきた。これはしかしもう途中段階までできているので。先ほど、部長から第一次総合計画は「住みよさの創造」というのがあって、それにいろいろ付け加えて、第二次総合計画のこの六つがあるのだが、そこに重要な点を付け足してということだと思う。この審議会は大目標のようなものを決める会ではあるが、そういう中で、この資料の4についてこの場でもう少し叩いていただけたらと思う。

**【委員】**

資料4では6案あるが、多い。私は3番だけでよいと思う。私は3番の「豊かさを実感できる暮らしの創造」を推薦する。それと、将来都市像。さっきもちょっと市民に汗をかかせるのかと言ったが、すがすがしい汗のかける山陽小野田、スマイルシティではなくてスウェットシティという言葉で、汗をかくということ表現したらどうかと思う。

**【会長】**

3番だけでいいという意見だが、この中から一つを選ぶということではいいのか。

**【事務局】**

いろいろな意見も踏まえながら、最終的に中心になる理念は一つと考えている。

**【委員】**

資料3は前回以前に我々が出した案がまとめられている。基本理念六つの案が示されたが、私も3番が全体を包含した内容でわかりやすくよいのではと思う。

それと、将来都市像は三つ以外にも案が出たが、それらも考える余地はあるが、私はこの三つの中では「活力と笑顔あふれる山陽小野田 スマイルシティ」がよいと思う。今後ますます国際化が進む中で、少し横文字が入るのがよいと感じた。一番下はサブタイトルが入ると見にくいので、大きく出したほうがよい。

**【委員】**

前回、時代を経ても変わらないというのはあてがないのではないかという意見と、変わらないでいいという意見が出

た記憶があって、私は変わらないものを追求しないといけないと思っている。小野田市＋山陽町だから、これは重要なポイントで、山陽町と小野田市は本当に違う。小野田市は産業が前面に出ている、商業でも将来がある。山陽町は商業がほぼないという状態だが、生活をするのには便利という方向にほぼ向かっている。それで、この六つのうち6番がちょっと変わっていると思ったので、それをちょっと加味できないかなと。山陽町と小野田市が合併して12年たって、小野田にも山陽にもなかったものが新たに生まれつつあるなど。40年たって50年たって変わらないものを探すというか追求するというか。そういう要素が欲しい。前回の山陽小野田市の住みよさというのはすごくわかりやすかったし、県内でも2位だという。これは残したい。広島と福岡に挟まれた状態でさらに都市化を目指すというのは正直無理があると思うので、お金とは別のものを目指すというのがこの中にあってほしい。活力と笑顔があるというのはわかりやすいが、何か山陽小野田市らしいよそにはない要素が欲しいと思う。

**【会長】**

基本理念については、3番と6番を足してというようなこと。都市像については2番目。

**【委員】**

将来都市像については、言葉の順序を入れ替えて「活力と笑顔あふれる スマイルシティ 山陽小野田」がいいと思う。

**【委員】**

基本理念については3番が多いが、豊かさを感じていない

人が多くいる。4～5割。実感できる暮らしの創造とあるが、今実感していない人も、施策により実感してもらえればいいが、市がそれだけのことをできるかどうか。豊かさというとはどうしても、心の豊かさよりは経済的な豊かさについてと感じる人が多いかと思う。豊かさの創造ということについて、「何を」という反発を感じる人も多いと思うので、この辺りはよほどの覚悟を持って、心も体も経済的にも、豊かでない人をできるだけ豊かにするという施策で頑張ってもらわないといけない。その上で「豊かさ」という表現をするべきであろうと思う。

**【委員】**

基本理念について、1番以降は現在住んでいる市民を対象とした意見。将来をふまえ、少しでも外からの流入を考えると、何か新しいことをしてまちが潤ってほしいという気持ちで、内向きだけでなく外からも住んでみたいという意味であれば、1番の「住んでみたい」という言葉もいいのではと感じる。上の構想では道の駅を作るという案が出ているが、先に作られるともういろいろできないので、何か新しいことや目玉を考えた上で、それを含んだ構想として、理念の中に盛り込むべきだと思う。

**【委員】**

まず基本理念が決まらなると将来像も考えにくいのでは。前回のキャッチフレーズが何をやるのかがわかりやすくすごくよかったのに、今回は「笑顔」と「スマイルシティ」がかぶっているし、「活力と笑顔あふれる」というのをもっと言葉で具体的に入れたほうがよいのではないか。だから、基本理念が決まって、それに関連づけて考えないと難しいのではと思う。

**【会長】**

私には関連づけているように思えるが、ただ言葉をどうまとめるかというところか。

**【委員】**

人口減少は国でも止められないのに、一つのまちが止められるわけがない。しかも国の政策として、国民総活躍ということなので、市民ひとりひとりが主役というのも国の方針にのっとっていると思う。ただ、どこでも発展している土地は女性が活躍している。この会議でも半分くらい女性メンバーでいいのではないか。男性が生産性を2倍、3倍と高めてくれるのであれば安心していられるが、今後は、もっと女性の意見を聞いて、家庭にいる女性にも活躍してもらわないと生産性も上がらないと思う。子どもからお年寄りまでと謳っているが、女性がどう思っているかも聞いてほしい。女性が住んで楽しい、豊かだと思える山陽小野田市、今は女性の存在が何もない。

**【会長】**

女性の力を活用というのはあちらこちらの一面で出ている。女性の意見を取り入れていないということはないと思うが、改めてどう入れるかはまた。

**【委員】**

子育てがしやすいとか、女性に優しいまちだなとかいうイメージがぱっとわくような。医療や教育が充実しているのが女性は好きだ。

**【事務局】**

施策の中で女性のことや子育てのしやすいまちづくりということは出てくる。魅力ある選ばれるまちであるためには、子育てしやすいまちというのが中心にないと、というのがあるので、それは施策の中に入ってくるものだと思うている。

**【会長】**

スローガンとしては男女問わずのものになるかと思う。

**【委員】**

基本理念についてリアリティをもっと入れこむべきだと思う。印象に残って親しみやすいものを含めてもらうことが大事である。インパクトがあるものがよいと思う。リアリティというのは、僕自身は、山陽小野田市にはよそに比べられるものがないと危機感を抱いていて、心から自慢できるものを探せたらそれこそがと思っている。

《休憩 5 分間》

**【会長】**

それでは御意見を。

**【委員】**

次の会議まででいいが、現状として高齢化社会、少子化がきている。それなのに、元気な高齢者の活用というのが計画の中にあまり見当たらない。いかに高齢者に社会参加をしてもらうか、ただ国からのメニューによって地域でお年寄りを支えようというのはマイナス思考であって、元気なお年寄りをいかに活用するかというのは大きな課題。各自

治会に高齢者が組織参加できるような仕掛けはやっているのか。お年寄りをいかにうまく活用するかは、財政的にも重要。これが基本計画には載っていないというのは、問題である。国のメニューにただのっかるのではなく、ぜひとも山陽小野田市ならではの、お金のかからない取組を検討してほしい。

**【会長】**

元気な高齢者が活躍するまちになれば財政負担は減っていく。それは計画の中で盛り込んでいくべきだと思う。

**【委員】**

基本理念の部分では「育つ」というキーワードが入っていない。子どもを持つ方に訴えかけるようなキーワードが必要ではないか。教育や子育て世代が入ってくるとまちは成長する。「育つ」や「発展」というキーワードを入れてみたらどうかと思う。

**【副会長】**

住みよさは高いが、市町村魅力度ランキングでは 1,000 位に近い。まちのイメージとして、イメージカラーをしかるべき機関で決定していただいて、それを反映するような形もよいと思う。

**【事務局】**

今の御意見は参考になった。第一次総合計画は、新市になって初めてのものであり、市内中心の計画であった。第二次総合計画では、市民にわかるものであると同時に、市外に打って出る必要があると思っている。情報発信が必要でそれにより認知度を高めていこうという思いもある。その



ため、あえて山陽小野田という言葉を入れている。ただ、言葉だけではなかなかインパクトがないということもある。市長に対しての答申という形もあるので、山陽小野田市のイメージカラーをつくるというのは、具体的な意見として対応できればと思う。

**【会長】**

先ほど方言という話もあったし、イメージカラーなどもうまく入れられるのであればあってもいいかもしれない。

**【委員】**

先ほど基本理念のところ、育つ、学ぶ、発展という文言について非常に貴重な意見があった。ただ、基本理念としては、あまり長い文言はどうかと思う。文言そのものは簡潔にして、基本理念の下にそれが生まれた背景を記して、そこに「育つ」「発展」などの文言を入れてもよいのではと思う。

資料2で第一次総合計画のものが示されているが、基本理念の2、3、4というのは非常にまずいなあと思った。基本理念はあくまで一つであって、その下で狙いやそれにこめられた願いを説明すればよい。

**【会長】**

次回でだいたい締めてまとめてもらうという格好になるので、また次回までに皆さん御意見があればお願いしたい。

(3) 今後の予定について  
(説明のみ。)

	3 その他
	4 閉会